NICU留学記

2009年3月より，神奈川県立こども医療センター新生児科では全国の若手医師を対象とした「新生児医療のための短期有給研修医制度」をスタートさせました．本コーナーでは，この研修に参加した若手医師の奮闘の様子を紹介します．

留学生：中島一恵
群馬県立小児医療センター
→神奈川県立こども医療センター

研修期間：2009年7月1日～2009年9月25日

第1回：新鮮なカルチャーショック！

川戸先生から引き継ぎ，今月から担当させていただく群馬の中島一恵です．小児科医として7年目，新生児科医3年目になります．これまで群馬大学小児科医局のローテーションによりいくつかのNICUで勤務してきましたが，他県のNICUに勤務した経験はありませんでした．神奈川県立こども医療センターのNICUマニュアルなどを参考にしながら診療してきたので，実際どのような診療を行っているのかとても興味があり，またある研究会の懇親会で新生児科の豊島先生と当時勤務されていたレジデントの先生とお話しする機会があり，ぜひ神奈川に行ってみたいなと思っていました．その後，豊島先生が短期研修医制度を立ち上げたという話を聞き，3ヵ月間の研修を志望しました．

群馬から横浜は車で2時間半．5月の中旬に挨拶を兼ねて1日見学に行きました．横浜といえばレインボーブリッジ，みなとみらいなどの華やかな印象が強かったのですが，病院は長い坂を登った山の上にありました．NICUでは短期研修中の川戸先生，全国から集まった個性豊かな5人のレジデントが明るく出迎えてくれました．その日は双胎の緊急帝王切開，呼吸障害児の入院でバタバタしており，これから始まる研修の日々に期待と不安を感じた1日でした．

7月1日，緊張した中で短期研修を開始しました．何から何までカルチャーショックの連続でした．1日の始まりは朝の病棟カンファレンスです．毎日1時間近く外科や循環器科など他の診療科の医師を交えて納得のいくまで議論し，治療方針を決定していきます．また，傾向として，胎児診断例の多さを感じました．重症例も多く，出生前に産科医と共に新生児科医がご家族に説明することで，ご両親の心の準備ができ，出生後の不安が軽減している印象を受けました．

毎日の忙しさを理由にせずに，ご家族へ細やかな説明を目指していること，カンファレンスを通してスタッフ間の情報共有を徹底していることが第一印象でした．

●留学記録　カンファレンスで徹底して話し合う姿勢に，チーム医療の原点を再認識しました．